

ICF思考による情報整理・分析シート

様式⑦

利用者氏名	Aさん
-------	-----

利用者・家族の意向	<p>利用者・家族の望む暮らし</p> <p>本人：脳梗塞で麻痺のある体になってしまったので、自宅で暮らしていけるかどうか不安。入院は二度とたくない。いずれは、仲間と一緒にまた将棋が楽しめるようになるといい。</p> <p>妻：自分の健康に不安があるが、夫の介護をしながら在宅生活ができるようになりたい。</p> <p>長男：退院後の両親の生活が気になる。できることは協力していきたい。</p> <p style="border: 1px solid orange; padding: 5px;">第1表 居宅サービス計画書(1)「利用者及び家族の生活に対する意向」に反映させてください</p>
-----------	---

健康状態【病名・症状、服薬内容、既往歴、主治医、受診行動 など】	<p>病名：脳梗塞後遺症、高血圧</p> <p>通院：脳梗塞発症で入院中。</p> <p>服薬：アダラート(血圧を下げる薬)、パナルジン(血管内で血液が固まるのを防ぐ薬)</p> <p>麻痺、拘縮：右上下肢麻痺</p>
----------------------------------	---

利用者現在の生活機能	<p>利用者の現在の生活機能</p>		
	<p>【心身機能・身体構造の状況】睡眠、栄養・水分、視聴覚・痛み、口腔、排尿・排便、筋力、全身持久力、精神面など</p>	<p>【活動の状況】立ち座り・浴槽のまたぎなどの起居動作、移動、運搬動作、洗髪・洗身、爪切り・耳掃除、下着・衣類の着脱、買い物、金銭管理、簡単な調理、掃除、整理整頓、洗濯、服薬管理</p>	<p>【参加の状況】外出先の有無、趣味活動、友人・親戚の交流、地域の居場所、日中の活動の有無、その他</p>
利用者の現在の状況	<p>右麻痺がある。</p> <p>義歯を使用している。</p> <p>義歯が合わなく、噛みづらい。</p> <p>老眼 聴力低下。</p>	<p>杖歩行(不安定)。</p> <p>つかまるところがないと車椅子使用。</p> <p>ズボンの着脱に介助が必要。</p> <p>ボタンのかけはずしが難しい。</p> <p>トイレに間に合わないことがあり、排尿を失敗することがある。</p> <p>入浴はシャワー浴をしている。</p> <p>身体の前面は自分で洗えるがそれ以外は介助が必要。</p> <p>左手によりスプーン・フォークを使って食事をしている。</p> <p>洗面・歯磨きは自分でする。</p> <p>自分で服薬できる。</p>	<p>将棋・ゲートボールを通じた知人は多い(以前はしていた)。</p> <p>家事はもともとしていない。</p> <p>一家の主人としての役割を担っていた。</p>

健康状態は生活機能にどのような影響を与えているか？

- ・脳梗塞の後遺症で、右上下肢麻痺があり、移動や生活動作に支障がある。
- ・高血圧のため、栄養管理や適度な運動ができないと血圧のコントロールができなくなる可能性がある。
- ・義歯があっていないため、また左手でスプーンを使って食事をするため、偏った食事になる可能性がある。

背景因子(環境因子、個人因子)は生活機能にどのような影響を与えているか

[環境因子]	[個人因子]
【家族構成及び家族の健康状態、家族・親戚とのつながり、経済状況、住環境(立地状況)、交通機関へのアクセス、よく利用していた社会資源、福祉用具・自助具、医療・保健・福祉サービス、友人の家までの距離、その他】	【年齢、成育歴、趣味・嗜好、性格、価値観、職歴、その他】
<p>腰や膝に痛みがある妻と二人暮らしで、家事は妻がすべてになってきているため、介護力に不安がある。</p> <p>適齢期の孫がいて、将来を楽しみにしている。</p> <p>長男が車で2時間の距離に住んでおり、高校の教員で仕事が忙しく日常的な介護協力は難しい。</p> <p>自宅は持ち家であり、ローンは完済済み。</p> <p>自宅のトイレや浴室に手すりがいないため、移動が困難である。</p> <p>道路から玄関まで段差があり、自分で移動できないため、ひとりでは外に出られない。</p> <p>「環境因子」→「与える影響」で記載する</p>	<p>年齢:80歳</p> <p>大手企業のサラリーマンとして定年まで勤務。厚生年金受給のため金銭に余裕がある。</p> <p>近所の仲間と将棋やゲートボールをするのが趣味。朝の連続ドラマをかかさず見ているなど、趣味を通して人と交流できる。</p> <p>まじめで温厚なため、人とうまく関わることができる。</p> <p>「個人因子」→「与える影響」で記載する</p>

現状が続くことで予測されるリスクは何か？(防ぐべきこと)

[環境]	[個人]
<p>妻が倒れたり、体調が悪化したら、家事及び介護する人が不在になる。</p> <p>トイレ、浴室の使用困難による介護量の増大。</p> <p>道路から玄関まで段差があって出かけられない。</p>	<p>再び脳梗塞になる恐れがある。</p> <p>血圧のコントロールができなくなる。</p> <p>噛めないため、偏った食生活で栄養不足になる。</p> <p>歩行不安のため活動量の低下がADLの低下を引き起こす。</p> <p>意欲低下から知人との交流や外出の機会が減少する。</p> <p>根気が続かず、やる気がおこらない。</p>

状況を改善するための促進因子は何か？(活動や参加にプラスに働く要素・内容)

[環境]	[個人]
<p>トイレ、浴室の環境を整え動作の自立を高める。</p> <p>持ち家なので、住宅改修がしやすい。</p> <p>近所の仲間や友人との交流があり、協力が得やすい。</p> <p>長男の家族が休日にはかかわることができる。</p> <p>妻の介護負担に配慮する。</p> <p>初めての在宅介護なので、どれくらいの介護量が必要になるのかを調べていく必要がある。</p> <p>孫娘がおじいちゃん子で、孫の結婚を楽しみにしている。</p>	<p>脳梗塞の再発を予防するために服薬等健康管理に留意する。</p> <p>マヒの状態を悪化させないようにPTと連携する。</p> <p>義歯が合えば食事がし易くなる。</p> <p>歩行状態の改善を図り活動性が向上できるよう介護職、PT等と連携しながら支援策を考える。</p> <p>知人との交流や趣味活動が再開できるよう本人の意向に配慮しながら意欲向上に働きかける。</p> <p>趣味を活かして人と関わり、交流できる。</p> <p>まじめで人とかかわる社会性がある。</p> <p>大手企業のサラリーマンとして定年まで勤務したため、自分におかれた状況を把握したり、今後の生活を組み立てる力がある。</p> <p>無理をせず退院後の生活サイクルに慣れるよう配慮する。</p> <p>年金があるので、経済的に安定している。</p>

介護支援専門員等による情報整理・分析

生活の目標
 脳梗塞の再発に気をつけて、夫婦ともに健康で自宅で生活したい。
 仲間とともに、将棋を楽しみたい。
 孫娘の結婚を楽しみにしており、結婚式に歩いて出席したい。

解決すべき課題の明確化と目標の設定	生活全般の解決すべき課題(ニーズ)	(長期目標)	(短期目標)
	1 在宅生活に早く慣れる。 2 脳梗塞の再発を防ぐ。 3 将棋仲間と一緒に将棋をしたい。 4 食事を楽しみながらおいしくとれるようになりたい。 5 自宅のお風呂にゆっくりと入りたい	①在宅の生活パターンをつくる。 ②体調を維持する。 ③仲間の所へ行って将棋ができる。 ③外出先でもトイレに困らないようにする。 ④長男家族といっしょに外出ができる。 ⑤介助なし(見守り)で、入浴できる。	①-1 1日の生活スケジュールを作ることができる。 ②-1 忘れずに薬を飲む。 ②-2 定期的な医療管理を受ける。 ③-1 転ばないように屋内の歩行ができるようになる。 ③-2 家からの外出方法を確保する。 ③-3 将棋をする新しい友人ができる。 ③-4 家で将棋が楽しめる。 ③-5 自宅のトイレに一人で行ける。 ④-1 3食規則正しく食事ができる。 ④-2 義歯の痛みがなく、食事が十分とれる。 ⑤-1 浴室の環境を整える。 ⑤-2 妻以外の介助で入浴できる。

導き出したニーズや目標を、第2表 居宅サービス計画書(2)に反映させてください。